

海外安全対策情報平成29年度（2017年度）第2四半期（7～9月）

1 社会・治安情勢

- (1) 8月27日、モラレス大統領による、グアテマラ無処罰問題対策国際委員会（C I C I G）ベラスケス委員長に対する、ペルソナ・ノン・グラータ宣言に端を発した政治的混乱により、全国各地でデモや道路封鎖が発生。グアテマラ市内においても、大統領出席予定のイベント会場に、一部デモ隊が乱入。また、国会前でもデモ隊が暴徒化し、議員らを国会建物に閉じ込めるなどの事件が発生。これらに対し、国家文民警察の機動隊が催涙ガス等に対応するなど、市内でも混乱がみられた。
- (2) 9月11日早朝より、国家文民警察と検察庁との合同による、青少年凶悪犯罪集団（マラス）掃討作戦が、首都グアテマラシティを含む全国規模で行われた。開始当日は180人の逮捕者が出るなど、捜査は本格的に行われており、警察等とマラスとの間の銃撃戦が、全国各地で連日のように発生した。
- (3) 対日感情については良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 国家文民警察が発表している犯罪統計によると、グアテマラ全土で犯罪数は軒並み減少傾向にあるものの、グアテマラシティの犯罪数は、前年同時期より増加傾向にあり、首都の治安は悪化傾向にあると言える。

ア グアテマラ全土

殺人	1, 100件	（前年比	7. 2%減）
傷害	1, 280件	（	” 9. 2%減）
強盗・窃盗	3, 015件	（	” 21. 8%減）
強姦	126件	（	” 18. 7%減）
誘拐	6件	（	” 14. 3%減）
行方不明	727件	（	” 24. 9%減）

イ グアテマラシティ

殺人	196件	（前年比	19. 9%増）
傷害	362件	（	” 8. 1%増）
強盗・窃盗	987件	（	” 10. 6%減）
強姦	5件	（	” 16. 0%減）
誘拐	2件	（	” 50. 0%増）
行方不明	119件	（	” 6. 3%増）

(2) 銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、平成29年7月～9月に治安当局が取り扱った殺人事件1,100件のうち、銃器を使用した事件は859件（全体の78.1%）に達する。殺人事件の銃使用率は、前年比で3.6%減であるものの、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案

8月31日、首都グアテマラシティにおいて車を運転していたところ、後ろから2人乗りのバイクに追突、同バイクはそのまま逃走した。

(4) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 7月21日正午頃、当館ビル駐車場入り口から約10mの路上において、イタリア国籍者に対する銃撃事件が発生した。

イ 8月9日午後4時頃、首都グアテマラシティZona 9において、バイクを運転していた推定30台男性が、何者かに銃撃され死亡した。警察の捜査によると、被害者はバイク強盗をしていた最中に、何者かに撃たれたとされている。

ウ 8月14日、首都グアテマラシティZona 21の住宅地区において、警察パトカーが巡回パトロールをしていたところ何者かに銃撃され、警察官2名が死亡、同1名が重傷を負った。

エ 8月16日午前8時頃、首都グアテマラシティZona 11ルーズベルト通りにある国立病院が、AK-47等で武装した集団から襲撃を受け、7名が死亡し、12名が負傷した。この事件で未成年を含む5名が逮捕された。

オ 9月5日午前8時20分、首都グアテマラシティZona 10、レフォルマ通り沿いに位置する、当国の主要テレビ局「カナル・アンティグア」のオフィス（ビル12階）の窓に銃弾が撃ち込まれた。

カ 9月14日および15日、首都グアテマラシティZona 1の国会付近において、二晩連続で暴動が発生。国家文民警察が催涙ガス等でデモ隊を排除するなどの混乱があった。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか、報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

脅迫電話および同メールについては、腹いせやいたずらによるものが大部分であるものの、避難や警察当局への通報などの処置をすることが肝要である。（了）